# 平成２７年度北毛地区小学校体育科授業研究会レポート

○日時：１１月２７日(金)
○会場：沼田市立薄根小学校
○単元名：ボール運動　ネット型
○指導者：井口智恵子教諭（６年）

今年度の北毛地区小学校体育科授業研究会は、沼田市立薄根小学校の井口智恵子先生が授業提供してくださいました。今回取り上げたボール運動（プレルボール）は、ネット型の運動であり、チームで協力しながら動くことの楽しさを十分に味わうことのできる授業でした。

授業のはじめに、アップを兼ねてドリルゲームを行っている様子です。テンポよく子どもたちが、プレルパスや三角パスを行っています。基本的な動きが身に付きました。

全体で集まり、本時のめあて「守備や攻撃の作戦を立て、ねらったところにアタックできるようにしよう」や活動内容を確認しています。活動する意欲が高まっていることは、姿勢からもうかがえました。

タスクゲームを行い、自分たちの立てた作戦が有効かをチームで集まって相談をしています。真ん中に作戦板を置き、活発に作戦を検討し、修正していました。

メインゲーム（1キャッチ　アタックプレルボール）を行っています。「プレル」「キャッチ」の声が、コートに響いています。ボールの方向に体を向け、素早く移動して味方にプレルしようとしていました。

試合後は、反省や感想を話し合いました。成果や課題を振り返ることで、次時への意欲が高まりました。

授業研究会では、先生方が７班に分かれて班別協議を行いました。体育授業観察チェックリストにある「教師の相互作用」「学習環境」「意欲的学習」「授業の勢い」「効果的学習」「その他観点」の６項目についての話合いが活発に行われました。

全体発表後は、沼田市教育委員会の林武史指導主事より、「きびきびとテンポがよく、主体的な活動ができる仕組みがあった。また、ねらいや技能がステップアップしていくことで、わかることからできることに段階的につなげることができる」ことや「ゲームの話合いは体育における言語活動として重要であるが、体育は体を動かすことが中心なので、今回のように身に付けさせたい力を明確にして、話合いの時間に制限をもたせることが有効である」ことなど、実践に向けた御指導をいただきました。また、群馬県教育委員会の橋憲市指導主事から「今回の授業の構成は、ドリル・タスク・メインの流れが一貫しているので、子どもたちは取り組みやすい。授業をとおして体育好きな子を育てることが運動好きな子を育てることにつながり、生涯にわたって体を動かす楽しさを知ることにつながっていく」という御指導をいただきました。

この度の公開授業及び研究会は、私たちのよりよい体育授業の実践につながる大変貴重な機会となりました。授業を公開してくださった井口先生をはじめ、研究会開催に御尽力頂いた皆様に、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。　　（文責　　沼田市立升形小学校　大関一久）